

## 令和2年度 固形腫瘍検討委員会活動報告

会議日時：2021年2月19日 19時00分～20時20分

様式：Web会議

出席者（敬称略）：西川 亮、田尻 達郎、米田 光宏（以上委員）

佐野 秀樹、滝田 順子（以上オブザーバー）、松本 公一（疾患委員会委員）

### 議題

#### 1. 委員長決定（確認）

- 定款上理事は委員長に就任できないため、川井委員、田尻委員が候補となった。
- メール事前審議のとおり、田尻委員を委員長とすることに決定した。

#### 2. 固形腫瘍の疾患委員会の必要性

- JCCG(日本小児がん研究グループ、以下 JCCG)疾患委員会が存在する中で、学会に個別の疾患小委員会は不要ではないかという意見が多く出た。
- 脳神経外科や整形外科の医師が学会活動に参加するには、評議員や理事というのはハードルが高いことから、固形腫瘍全体の疾患小委員会をチャンネルとして活動するのがよいのではないかという提案があった。
- 小児外科以外の外科系医師の会員数を増やし、学会活動にもより活発に参加していただくための方策を考える場としても固形腫瘍全体の疾患小委員会があるとよいのではという意見も多かった。

#### 3. 評議員不足への対策

- 評議員の要件（特に会員歴8年など）が厳しすぎるという意見が多く出た。
- 小児科・小児外科領域とは別の緩和要件（例：会員歴3～5年）を設けるのがよい。

#### 4. 領域指導医資格のあり方

- 資格をもつメリットがないので、資格を取得しようという人はいなかったし、これからは出ないと思われる。
- このような資格があるということが該当する会員に周知されていない。
- 上記より、専門医制度において領域指導医資格は不要ではないかという意見が大勢を占めた。

#### 5. 小児外科以外の外科系診療科の先生方と学会との将来的な関わり方について

- 学会同士の交流（脳腫瘍学会など）を深めるということが必要である。当学会から他の専門領域の学会に参加していくことも大切である。
- 学術集会のプログラム策定について、たとえばJCCG疾患委員会にも協力していただき、他の領域の先生方に学術集会に興味を持って参加していただくことも重要である。また、他の専門領域の学会とのジョイントセッションなども積極的に検討すべきである。

以上

文責：米田 光宏